地区広報 芸術の森

題字　平澤　博

第7号
平成19年1月29日
発行　地区広報・芸術の森編集委員会
印刷　(株)辻　孔　版　社

年頭のご挨拶

札幌市南区長
立石　彰

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり謹んでご挨拶申し上げます。

日頃より、芸術の森地区の皆様には、南区のまちづくりの推進に特段のご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、札幌市では昨年、「自治基本条例」が成立し、「市民の力みなぎる文化と誇りあふれる街」の実現に向けて、より確かな一歩を踏み出すと共に、南区におきましても、住民の皆様による多種多様な地域活動が精力的に行われるなど、市民自治を実感することのできる１年となりました。

今後とも対話の機会を通しまして、皆様の思いをしっかりと受けとめながら、お互いに汗と知恵を出し合い、素晴らしい南区の街づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

さて、芸術の森地区では、これまでも「もりの仲間の子供を見守るネットワーク」の設立をはじめ、住民自ら、向こう10年間の街づくりの方向性を示した「新まちづくりビジョン」の策定など、独創的なまちづくり活動が積極的に展開されております。

なかでも、まちづくりビジョンの重点戦略として、シーニックバイウェイ構想への挑戦を位置付け、昨秋には札幌市立大学を会場に多くの市民や学生による大規模なワークショップが開催されるなど、その機運は徐々に盛り上がりつつあるものと思います。

「道」をキーワードに、町内会をはじめ地域の様々な団体の方々が、緩やかに連帯しあいながら、楽しく深まりのある活動が実践されますこと、更には、この芸術の森地区から南区の他地域へと、その活動の輪が拡がりますことを期待しております。

最後になりますが、芸術の森地区町内会連合会をはじめ、各種団体の益々のご発展と、皆様のご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

謹賀新年

平成18年は、芸森連町の新まちづくりビジョンが策定され、子供を見守るネットワークも組織されました。芸森社協では、お年よりを対象としたさわやかクラブが始まりました。子供を見守る活動には、青少年育成委員も積極的に参加することができました。このように、子供や老人を対象とした行事の多い年でありましたが、地域の皆さんのご協力によりまして無事終えることができました。ご協力を頂いた皆様に厚くお礼申しあげます。

本年も皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

芸術の森地区町内会連合会　会長　**高橋稀一**
芸術の森地区社会福祉協議会　会長　**伊藤　正**
芸術の森地区青少年育成委員会　会長　**前口敦司**

雪明かりの祭典 イルミネーション

「ごみ対策」の進捗状況について

環境衛生部長　堀川　昭八

ごみ問題については、平成18年春に見直しされた「芸術の森地区まちづくりビジョン」のほか、今年度連町事業の重点の一つとしてもとり上げられて、関係各位のご理解、ご協力のもと予定どおり進めさせて頂いていることを先ずご報告し、お礼を申し上げます。

重点的な取り組みの一つであります「生ごみ減らし対策」については、その成果は各戸の努力に期待するところが大きく、年度初めの頃のクリーンさっぽろ（芸術の森）衛生推進員（17名）による研修会をはじめ、各単町・団体等の出前講座などの実施により、その実現を期しているところであります。

もう一つの重点的取り組み「ごみの不法投棄防止策」ですが、生ごみ減らし対策同様に、広報誌等によるPRを続ける傍ら、地域内の巡回と行政関係先などとの連絡・協議を重ねて投棄の皆無を期してきましたが、その活動の一環として去る11月３日に各種団体等の協力を得て、不法投棄物の回収作業を実施しました。

当日は、実施ヶ所を多くの人達の散策路ともなっている石山２号線と決め、連町会長をはじめ各役員、各単町協力員、更に体育・青年団体関係から、休日にも拘わらず芸術の森・清掃事務所の皆さん方のほか「毎年恒例的に清掃活動を行い、今年が９回目」という「カッコウの里を語る会」の方々など、計60余名の参加を得て行われました。

この日は、連町文化祭の開催もあり午前中一杯の作業でしたが、道路端ばかりでなく西斜面下からの回収を含めて、米谷さんのトラック提供など、皆さんには大変な難儀をおかけし、お陰様でトラック６台分の回収成果となりました。ここに重ねてお礼を申しあげる次第です。

なお、このあとは春の雪解けを待ち地域内各連絡線等の対処を考えたいと思いますし、冬季間にボランティア監視員制度の立ち上げなども予定したいと思います。現況を簡単にご報告し、今後とも変わらぬご協力をお願いし、状況報告と致します。

芸術の森地区

子供見守り運動実施

主催　連合町内会　交通安全部
もりの仲間の子どもを見守るネットワーク

去る10月25日、地域の人々が集まり、芸術の森地区に住む子供たちの安心･安全を願う大集会を開催しました。

まず、午後１時から芸術の森地区会館２階会議室において、「北海道CAP（Child Assault Preventionから頭文字をとったもの）をすすめる会」による講演会を開きました。子どもが暴力から自分を守るための教育プログラムで、寸劇を交えた分かりやすい内容と、身を守るための具体的手段、大声の出し方など、役立つ内容が多く、時間が足りないほどでした。

２時30分からは、地区会館前に場所を移し、子供見守り総決起集会を開きました。立石彰南区長、宮田敏美南警察署交通第二課長のご挨拶をいただいたあと、地域から活動宣言があり、続いて会館前での一斉街頭啓発を実施しました。

引き続き３時からは石山東、駒岡、常盤の３小学校区ごとに、地区会館から小学校まで、街宣車とともにパレードを実施しました。

参加者105名、黄色のジャケット･たすき･ベストを身に着けた地域の人達の心が安心･安全の象徴として大きく映った一日でした。

第16回 常盤スノーフェスティバルが開催されます

常盤体育振興会と常盤小学校PTA地区委員会主催の、地域と学校が一体となって行っている楽しい冬の行事が下記により開催されます。参加者にはおみやげ等沢山準備して皆さんのご参加をお待ちしております。

●日時：３月４日（日曜日）　●場所：常盤公園グラウンド
●主催：常盤体育振興会　●協賛：常盤小学校PTA

入所サービス
ショートステイ
みなさまの想いにおこたえいたします
通所リハビリテーション
医療法人 愛全会
介護老人保健施設
アートヒルズ
〒005-0849 札幌市南区石山837-47
居宅介護支援事業所併設（ケアプラン作成）

0120 Free Dial 0120-348-365

「シーニックバイウエイ・ワークショップ」開催される

テーマ　～沿道空間をより美しくより楽しくするために～

昨年の10月14日（土）午後１時から、昨年４月開校した札幌市立大学の体育館で、芸術の森地区町内会連合会および南区の主催により「シーニックバイウエイ・ワークショップ」が開催され、札幌市立大学や札幌市立高等専門学校の学生17人をはじめ地域住民や関係者など約140人が参加しました。

今回のワークショップは、昨年４月に各戸配布された「芸術の森地区まちづくりビジョン」で重点戦略事業とされた「シーニックバイウエイ」について、多くの住民の理解を得るとともに、住民自らどんな取り組みができるか論議するために実施したものです。

最初に国土交通省道路調査官の和泉晶裕氏が、シーニックバイウエイとは、地域が主体となり、「美しい景観づくり」や「活力ある地域づくり」、「魅力ある観光空間づくり」につながる取り組みを行い、関係市町村と国がその支援を行うものであり、すでに支笏洞爺ニセコルートや大雪・富良野ルートが指定されていることを説明。

続いて参加者たちはシーニックバイウエイ構想への挑戦に向けて12グループに分かれ、「何が地域の課題か」、「地域には何ができるか」などについてさまざまな角度から意見を交換。各グループには学生や地域のお年より、自治体職員など幅広い業種や年齢層の人達が同席し、熱い議論を交わしました。

「真駒内川の景観をより良くするため、遊歩道にコスモスを植えたり、川の清掃をしてみては」、「公共施設のみでなく地域住民の協力で新たなイベントをやってみては」、「札幌市立大学や札幌市立高等専門学校が行った地域の研究を活用してみては」などの意見が出されました。

最後に各グループ内でだされた意見を代表者が発表し、今後活発に活動していくことを確認し閉会となりました。

寒さに負けず元気に挑戦！
恒例 初心者スキー教室を開催

「うわ～！」「おー」真駒内スキー場に歓声がこだまする。ことしも南区芸術の森地区青少年育成委員会が主催する「初心者スキー教室」が１月13日・14日に開かれました。

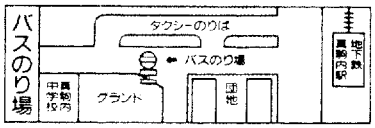
学校でのスキー学習を前にした小学生28人が参加。初めてスキーをはいた子供にはマンツーマンで指導。泣き顔だった子も最後にはリフトを使って喜びを輝かせていました。

（横山圭子）

永久に生きる花と緑の明るい聖地
真駒内滝野霊園
札幌市許認可霊園

無料 見学・墓参バス運行中

時間　午前 10:00　午後 12:00　午後 2:00



お問合せ・お申込みは　真駒内滝野霊園事務所 ☎(011)592-1223(代表)

地域のお困りごととその解決について

～講演会及びワークショップの開催～

芸術の森地区社会福祉協議会

去る12月２日（土）13時30分より芸術の森地区会館において、本協議会福祉推進部事業の一環として、「地域のお困りごととその解決について」をテーマとした研修会が開催されました。

はじめに、札幌市ボランティア研修センターのボランティア推進係長大能文昭氏による講演会があり、ボランティア活動が、今、話題となる背景が、少子高齢化・核家族化及び福祉制度の限界そしてボランティア活動者の増加にあることが説明されました。加えて、ボランティアセンターの必要性と機能として考えられることについての具体的な説明がありました。

札幌市ボランティア研修センター
ボランティア推進係長
大能文昭氏

つぎに、ワークショップに移りましたが、はじめるにあたり、コーディネーター役の北海道コミニュテイレストラン研究会代表の伊藤規久子氏から、進め方についての説明がありました。参加者は40名、５つのグループに別れ、「・・・お困りごととその解決について」活発な意見が交換されました。困りごとの内容は多岐にわたりましたが、主催者側の社会福祉協議会関連についてのみ、まとめてみますと、つぎのとおりです。

北海道コミニュテイ
レストラン研究会代表
伊藤規久子氏

１．地域で困っていること

① 冬場の安心・安全な暮らし（高齢化に伴いますます増加する除雪援助、福祉除雪協力員の不足など現行の福祉除雪制度の機能不全、雪捨て場の不足、バス停通路の除雪の必要性、高齢者の安全な歩行確保など）
② 地域交流（地域住民間のコミュニケーション不足、町内会加入率の低下、町内会役員のなり手の不足、地域イベントやまちづくり活動への参加者の固定化など）
③ 高齢者の生活支援（外出介助、認知症の高齢者のサポートなど）
④ バス路線の存続（滝野地区の一部）

２．地域の課題を解決するために地域で取り組むことができること

① 除雪活動
② 高齢者のための生活支援サービス活動
③ お茶のみ感覚で気軽に交流ができるサロンづくり
④ ボランティアの登録などボランティアセンター的機能を持つ機関の構築

３．今後の進め方

12月２日実施のワークショップの結果を踏まえ、12月11日（月）18時30分より常任理事会を開催し、今後の進め方を検討した結果、引き続き常任理事会等で検討を加え、ボランティアセンターの構築にむけた検討を進めることとなりました。

［森の仲間のさわやかクラブ］事業の概要

芸森地区社協福祉推進部長　**塩田恒雄**

昨年５月に立ち上げられた芸森地区社協の森の仲間事業の一つ「さわやかクラブ」は、芸森連町14町内会を４ブロックに分けて平成18年７月から開始されました。

その内容等は次のとおりです。

◆事業の内容および実施状況

保養センター駒岡で、朝市を楽しみながら介護予防教室・入浴・食事を提供し、日頃、在宅がちの高齢者の人達が地域とのふれあいを促進するため、「森の仲間のさわやかクラブ」を毎月第４日曜日に行い、毎回20名の参加を得て予定どおり11月下旬まで５回実施してきました。

なお、12月から２月までの冬期間は中止し、３月より再開の予定です。

◆アンケート調査結果

参加された100名の方にアンケート調査を行ったところ参加者の90％以上の方が「参加して良かった」の回答があり、本事業に対して高い評価が得られました。

◆今後へ向けて

３月から再び再開しますが、平成19年度も継続実施の予定でおります。

本事業は、「高齢者の方々を如何に参加させるか」を課題としてスタートしましたが、福祉推進員や関係者の協力を得て改善を加えながら進めていく所存です。

楽しかった、おいしかったよ！

青少年育成委員　**横山　雪枝**

昨年12月10日、常盤児童会館と地区育成委員の協力のもとに行われた「もちつき大会」は、天候にも恵まれ、過去最高の350人以上の参加をいただきました。今年は、留学生の参加もあり参加された皆様には、つきたてのおもちを、お雑煮やお汁粉、納豆、大根おろし、きな粉などで味わっていただき、なくなりつつある日本の伝統行事を、今一度楽しんでいただきました。

「森の仲間のさわやかクラブ」事業実施状況

ブロック別	参加人数	実施日（月日）	参加町内会
A	19名･22名	7.23、11.26	見晴、石山東、八区
B	20名	9.10	常盤団地、アートパーク
C	20名	9.24	常盤一区、常盤二区
D	19名	10.22	サンブライト、真駒内三団

親子でクリスマス会楽しみました

新年は福笑いでスタート

もりの仲間の子育てサロン

●去る12月20日にクリスマス会を開きました。お友達はパネルシアターを見るだけではなく、積極的に前にでてきてパネルに貼るのがとても楽しかったようです。大きな声で歌うこともできました。みんな大きくなりました。サンタクロースと南老人福祉センター館長さんからのプレゼントにみんな大喜びでした。去年は怖がって近づくことのできなかったお友達も、今年はサンタさんと一緒に記念撮影をしていました。
後半はサロンのボランティアさん手作りのケーキをいただきながらみんなでおしゃべりを楽しみました。

●新年はじめてのサロンは１月10日でした。お正月らしく、しめ飾りをかざり、雪だるまや男の子・女の子の「福笑い」をして遊びました。ママたちは懐かしいと思いながら、またお友達は目かくしなしで、目や口を置いて楽しんでいました。

新年１月からのサロンのご案内

１月10日（水）･17日（水）
２月７日（水）･21日（水）
３月７日（水）※３月は１回のみです
時間はすべて10:00～11:30です

文化祭

作品の完成度の高さに感動

去る11月２日・３日には、連合町内会恒例の文化祭が開催されました。

今年の展示会場は、常盤団地にお住まいの芸術家檜森さんの発想によるレイアウトで、今までとは違う新しい雰囲気が生まれました。

陶芸・書道手工芸・写真水墨画・折り紙・生花等々、サークル単位や個人参加の作品184点が飾られ、地域の方々の多様な趣味と、高度な芸術性に接し、存分に楽しむことができました。デイサービスふれあい・ふれあいの里、藻南学園、聖静学園さんからの出品もありまさに地域一体の文化祭となりました。

第11回

芸術の森地区 音楽祭

11月19日(日)芸術の森アートホールで開催された標記音楽祭は、手作り音楽祭として開催も11回を数え、地域に根付いたものとなりました。

開催当日は、まずまずの天候で出演者もほぼ前年並みの375名、同じく総入場者も850名に達しました。聴衆は、小学生や中学生の出演時間帯に多く、父兄の皆さんの熱心さが会場を盛りあげてくれました。

当地域にお住まいの札幌交響楽団のメンバーであります橋本さんご夫妻の出演が他の演奏会と重なり適わなかったことは惜しまれました。

反省点としては、演奏中に人の出入りがあり会場が多少ざわついたことがありましたが、担当者の素早い対応で短時間で収まりました。今後は張り紙などで注意を喚起するなど対応が望まれます。

前日の会場設営や当日の運営ならびに復元作業は、回を重ねる毎にスムーズに行われ、手作り音楽祭が軌道に乗った感じがいたします。

この手作り音楽祭が今後末永く続くことを願いながら、会場の設営や音楽祭の運営ならびに復元作業でご活躍いただいた関係者の皆さんにお礼を申しあげます。次回も引き続きご協力をお願いいたします。

第35回南区少年少女親善スポーツ大会で
芸術の森地区大活躍！

ドッジボール

石山東小学校高学年チームが２年連続優勝という素晴らしい力を発揮してくれました。

常盤小学校は低学年チームが優勝です。

芸術の森地区で、南区の４つの賞の内３つをいただいてきました。来年度も優勝を目指して頑張ります。

芸術の森地区育成委員　小石川 英 功

▲中学年の部準優勝
「石山東バイソンズJr」

◀高学年の部優勝
「石山東バイソンズ」

高齢者クラブ紹介 ③

常盤明常会の歩み

常盤明常会　会長　岩田　実

常盤明常会は本年創立40年を迎えます。10月にはささやかな記念式典を開くよう検討しているところです。

会の構成は、常盤一区・常盤二区・真駒内三団・滝野・常盤台の５町内の広範囲に及びますが、運営はきわめて円滑に推移現在に至っています。

昭和43年の創立当時の資料をはじめ、節目ごとに発刊された記念誌をひもとく時、創立当時の土台づくりがきわめて慎重に、かつ適確に進められたことがうかがえます。初代会長の中野藤次郎氏（前常盤１区町内会長中野務氏のご父君）は、創立準備にあたり信頼出できる発起人の方々を、核となる常盤一区町内会をはじめ他の４町内会を幾度となく訪問、協議を重ね合意を得たうえで発足したことが、今日の繁栄につながっているのだと思います。

お陰様で会員数もさして減少することなく（新入会員が毎年数名増えますが、自然減と後述する友愛会員の増加で一般会員数の増加は見込められない）現在に至っています。

次に他のクラブと異なる「友愛会員」の制度の説明をいたします。一般会員90数名と賛助会員16名からは年額２千円の会費負担を頂いていますが、友愛会員の会費は免除です。但し慶弔関係等の待遇は、一般会員と同じです。この制度の趣旨は、永年会の発展に寄与された方が高齢化が進み、あるいは長期療養等で各種行事等に不参加を余儀なくされ、快復の見込まれない方への処遇の制度です。現在の友愛会員は18名。比率では15･5％に当たります。

◆年間行事の主なものは次のとおりです。

親睦旅行等	２泊旅行　２回	一泊忘年会
誕生会	毎月第３金曜	常盤１区会館
役員会	毎月第３金曜の属する月曜	
観桜会	５月	滝野会館
観楓会	10月	常盤２区会館
新年会	１月	常盤１区会館
輪投げ大会	２月	常盤１区会館（クラブ単独開催）

盆おどり・常盤神社祭　協賛で協力

以上各種行事で一番の人気は、年３回の宿泊旅行です。この数年各種行事への参加数が増加の一途を辿り、特に新入会員の積極的な参加はうれしい現象です。

常盤明常会　（ひだか高原荘　平成18年７月15日）

心豊かに支え合う「駒岡寿会」

駒岡寿会　会長　高橋　弘

駒岡寿会は、昨年昭和51年１月に設立して以来満30年が経過し、７月に30周年記念式典を盛大裡に終了したところです。

駒岡寿会は、駒岡町内会、駒岡団地町内会の両町内に該当する入会希望者の老人で構成されております。現在会員数は53名です。（男性22名、女性31名）

会の活動成果は極めてよく、現在の時代にマッチして施策を興じ更なる発展に努めているところです。

老人会の目的であります「健康・友愛・奉仕」の三大運動に意をそそぎ、会員自身が健康に強い関心をもって、健康づくりに励み、健康管理に励んでおります。

「友愛」については、毎月２回行われている月例会の場において、会員相互の親睦を深め、幸せな老後を過ごすための、心の結びつき、お互いの信頼、安心感、等々の話し合う喜びなどを求める会員の集いの場となっております。

「奉仕」については、高齢老人が行える奉仕として、軽易な作業の実施、公道等のゴミ拾い、公共施設の庭園の草取り、手入れ等、奉仕意欲の向上に努めており、関係者より感謝もされております。

特に「駒岡寿会」の特色として、創立以来この30年間会員として活躍された諸氏が、物故者となられた50名の霊位に対して、春秋の２回のお彼岸に、祭壇をつくり、物故者名簿を供え、献花幸なる物を供えて追慕供養のため、慰霊祭を実施しております。

「駒岡寿会」が地区老人会にとって、真に有意義で望まれる老人会であるよう努力して居ります。札幌市福祉関係、町内会、地域の皆々様、一層のご支援をお願い申し上げます。以上

駒岡寿会　（研修旅行　平成17年10月18日）

文化マップ

リュージュ

アートパークタウン町内会
高松　一彦

人物編

10歳の頃からリュージュを始め、今では日本オリンピック委員会・リュージュ担当専任コーチとしてナショナルチーム、ジュニアチーム、そしてフッズでの小中学生対象の夏季練習会を選手と一緒に勉強させていただいております。

同じコースを使用するボブスレー・スケルトン・リュージュは似ていますが異なる競技です。ブレーキ・ハンドルがありクールランニングでも有名になったボブスレー、頭からうつ伏せで滑走するスケルトン、そして仰向けで足から滑る我々のリュージュ。

少年団時代を経て数年にわたる海外遠征を重ね、24歳の時には世界のトップ10になることができました。残念ながらNo.1にはなれませんでしたが、たくさんの方々の支援とご協力によりそれから５年間にわたりトップクラスでの競技生活を送ることができました。

現在は前記のようにプロコーチとして10月から２月までほとんど選手時代と同じように海外で生活し、選手とともに日本の競技力向上のためがんばっています。

長期の海外生活では旅行ではなく生活をしているわけで、あまり楽しいとはいえない毎日です。ヨーロッパではどこでも車で移動して、すごいときはトリノ（イタリア）からジグルダ（ラトビア・旧ソビエトのバルト３国のひとつ）まで3000kmを２日で移動したりと、かなりハードな日々の連続です。とはいえそれぞれの土地で日本では味わえない料理やいろいろな人々と会えるのはすばらしい経験です。

正直、リュージュは競技人口が少なく、小さい頃から始めればかなりの確率で海外遠征に行ったり、オリンピック出場も夢ではありません。藤野のフッズでは１、２月のシーズン中、初心者のための講習会を開催していますので、親子で一度体験してみてはいかがでしょう。１／13･14、１／21、１／27、２／27の５日間６回にわたり体験会を開催します。滑走中コース内には他の誰も滑っていませんので、長いコースを独り占めです。他の競技に比べてぶつけたりはけっこうありますが、大きな怪我が少ない安全な競技です。今年、札幌リュージュ連盟ではカルガリー（カナダ）との選手交流会を行う予定で新年早々カナダに向かう予定です。

みなさん！何か熱中できるものを求めている方、一緒に寒い中、熱い心で滑ってみませんか？

芸術の森地区

雪あかりの祭典事業

１月13日（土）、標記事業のオープニングイベントが札幌市芸術の森で開催されました。早朝９時から子供達による雪像づくり（イノシシ）、12時からもちつき大会（参加者は600名を上回る）、16時30分よりイルミネーション点灯式が行われ、国道453号線沿いのイルミネーションに一斉に点灯されました。

札幌市南老人福祉センター会場OR石山東地区会場

- **実施日**：平成19年２月９日（金）16時～20時
- **会　場**：札幌市南老人福祉センター及び石山緑地の一部
- **参加者**：札幌市南老人福祉センター・石山東町内会・見晴町内会・八区町内会・少年野球部「石山フォックス」・南老人福祉センター時間外管理（ボランティアグループ　しらかば）
- **実施概要**：平成19年２月９日を中心に前後２～３週間、会場周辺をイルミネーション・アイスキャンドル・雪だるま等で飾り、実施日当日はメイン会場の南老人福祉センターで甘酒を振る舞う予定。

クリーンさっぽろ衛生推進員協議会（芸術の森地区委員会）からのお知らせ

今年度のボランティア（地域環境美化）活動実践者として、同協議会会長からつぎの方々に感謝状が贈られておりますので、ご披露・お祝いを申しあげます。

・地縁団体見晴町内会
　笹田　仁史 様
・石山東町内会
　二瓶　捷一 様
・常盤団地町内会
　黒瀧　隆雄 様

編集後記

平成18年は、第4号、第5号、第6号、特集号のNo.5を発刊することができました。これも偏に編集委員の方々と皆様の取材時のご協力の賜物と感謝申しあげる次第です。

本年も前年同様のご協力をお願いいたします。

編集委員長　関口　明
副編集委員長　三上　良子
編集長　堀川　昭八
〃　館岡恵美子
〃　吉澤　孝子
編集長　石黒　裕子
情報部長　古内　一枝
会計部長　佐藤　宗昭
会計監査　江尻　元